

## 第Ⅱ部 調査結果の概要



## 第1章 暮らし全般について

### 1 生活総合満足度 (P19)

現在の生活全般についてどの程度満足しているか尋ねたところ、「たいへん満足している」(5.9%)と「どちらかといえば満足している」(49.7%)を合わせた《満足している》は55.7%であった。一方、「たいへん不満である」(3.8%)と「どちらかといえば不満である」(13.7%)を合わせた《不満である》は17.5%で、《満足している》が《不満である》を38.2ポイント上回った。また、「どちらともいえない」は、22.1%であった。

過去の調査と比較すると、《満足している》では、平成30年度は平成29年度と比べて3.6ポイント増(55.9%→59.5%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(59.5%→55.7%)となった。一方、《不満である》では、平成30年度は平成29年度と比べて3.0ポイント減(19.1%→16.1%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて1.4ポイント増(16.1%→17.5%)となった。

### 2 暮らし向きの変化 (P22)

昨年と比較した現在の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「よくなった」(3.2%)と「少しよくなった」(8.2%)を合わせた《よくなった》は11.4%であった。一方、「悪くなった」(5.3%)と「少し悪くなった」(22.5%)を合わせた《悪くなった》は27.9%で、《悪くなった》が《よくなった》を16.5ポイント上回った。また、「変わらない」は、56.2%であった。

暮らし向きの変化を過去の調査と比較すると、《よくなった》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.4ポイント増(11.3%→14.7%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.3ポイント減(14.7%→11.4%)となった。一方、《悪くなった》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.1ポイント減(30.0%→26.9%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて1.0ポイント増(26.9%→27.9%)となった。

暮らし向きが《悪くなった》と回答した386人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「日常生活費が増えたため」が45.3%で最も多く、次いで「賃金などの収入が減ったため」が45.1%であった。

暮らし向きが《悪くなった》理由を過去の調査と比較すると、「教育費が増えたため」は、平成30年度と比べて10.0ポイント増(15.4%→25.4%)となり、最も増加した項目であった。

一方、「倒産・解雇などのため」は、平成30年度と比べて1.8ポイント減(3.9%→2.1%)となり、最も減少した項目であった。

### 3 今後の暮らし向きの見通し (P29)

今後の暮らし向きの見通しを尋ねたところ、「明るい」(4.3%)と「やや明るい」(10.0%)を合わせた《明るい》は14.3%であった。一方、「暗い」(8.5%)と「やや暗い」(29.0%)を合わせた《暗い》は37.5%となり、《暗い》が《明るい》を23.2ポイント上回った。また、「変わらない」は、34.8%であった。

過去の調査と比較すると、《明るい》は、平成30年度は平成29年度と比べて1.8ポイント増(14.6%→16.4%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて2.1ポイント減(16.4%→

14.3%)となった。一方、《暗い》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.2ポイント減(37.3%→34.1%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.4ポイント増(34.1%→37.5%)となった。

#### 4 地域の住みよさ (P32)

現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねたところ、「たいへん住みよい」(13.1%)と「どちらかといえば住みよい」(56.7%)を合わせた《住みよい》は69.7%であった。一方、「たいへん住みにくい」(1.0%)と「どちらかといえば住みにくい」(8.5%)を合わせた《住みにくい》は9.5%で、《住みよい》が《住みにくい》を60.2ポイント上回った。

過去の調査と比較すると、《住みよい》は、平成30年度は平成29年度と比べて6.3ポイント増(67.2%→73.5%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(73.5%→69.7%)となった。一方、《住みにくい》は、平成30年度は平成29年度と比べて2.5ポイント減(11.5%→9.0%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて0.5ポイント増(9.0%→9.5%)となった。

#### 5 定住意向 (P35)

今後も現在のところに住み続けたいか尋ねたところ、「現在のところに住み続けたい」が63.0%で最も多かった。また、「神奈川県外へ移りたい」は、5.3%であった。

過去の調査と比較すると、「現在のところに住み続けたい」は、平成30年度は平成29年度と比べて5.0ポイント増(60.3%→65.3%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて2.3ポイント減(65.3%→63.0%)となった。

## 第2章 生活意識 (P38)

県民の様々な生活意識を把握するために、34項目を提示して「そう思う」と「そう思わない」で尋ねた。

「そう思う」では、「環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」が92.5%で最も多く、次いで「介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が91.2%であった。

以下、「育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」(88.8%)、「神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ」(82.2%)、「県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい」(80.6%)が続いた。

「そう思わない」では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が82.7%で最も多かった。

「そう思う」の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成27年度～平成30年度の調査と同様に、「環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」が第1位、「介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が第2位、「育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が第3位となった。

「そう思わない」の上位10項目について過去の調査と比較すると、前回調査と同様に、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が第1位、「今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊

重され、差別がない地域社会になっている」が第2位、「今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている」が第3位となった。

### 第3章 暮らしの満足度 (P66)

#### 1 生活重要度 (P66)

身近な生活に関する44項目について、どの程度重要だと感じているかを尋ねた。

「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせた《重要である》と「さほど重要でない」と「まったく重要ではない」を合わせた《重要でない》を比較すると、すべての項目で《重要である》が《重要でない》を上回った。

《重要である》をみると、「病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」(94.7%)、「犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」(92.1%)、「大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと」(92.0%)、「水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること」(91.8%)、「地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」(90.3%)、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」(90.0%)がそれぞれ9割以上であった。

《重要である》の上位10項目について過去の調査と比較すると、前回第2位であった「病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」が第1位となり、前回第1位であった「犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」が第2位となった。

#### 2 生活満足度 (P73)

「生活重要度」で尋ねた項目と同じ44項目について、どの程度満たされていると感じているかを尋ねた。

「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた《満たされている》は、「下水道が整備されていること」が68.2%で最も多く、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」(49.7%)と「身近に親しめる緑や水辺があること」(46.9%)が続いた。

「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた《満たされていない》は、「地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が41.6%で最も多く、「地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」(37.8%)と「高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること」(35.2%)が続いた。

《満たされている》の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成27年度～平成30年度の調査と同様に、「下水道が整備されていること」が第1位、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」が第2位、「身近に親しめる緑や水辺があること」が第3位となった。

《満たされていない》の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成27年度～平成30年度の調査と同様に、「地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が第1位となった。「地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」は、前回調査の第9位から第2位となった。「高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること」は、前回調査の第5位から第3位となった。

## 第4章 県行政への要望 (P84)

神奈川県を行政を進めていく上で、力を入れて取り組んでほしい分野について30項目を挙げて複数回答（5つまで選択可）で尋ねたところ、上位5項目は、第1位「防災対策」（49.4%）、第2位「治安対策」（44.8%）、第3位「医療体制の整備」（33.0%）、第4位「子育て支援」（32.5%）、第5位「高齢者の福祉対策」（32.1%）となった。

過去の調査と比較すると、前回調査と同様に「防災対策」が第1位、「治安対策」が第2位となった。平成27年度～平成30年度の調査で第3位であった「高齢者の福祉対策」は第5位となった。上位5項目は、平成27年度以降同じ項目となっている。